

医薬品研究開発と臨床試験専門職のための総合誌

Clinical Research Professionals

クリニカルリサーチ・
プロフェSSIONALS

■座談会

「CRCのキャリアパス」を考える (前編)

齋藤 裕子 氏 / 福谷 美紀 氏 / 山下 紀子 氏 /
野沢 浩江 氏 / 波多 昌子 氏

■Topic

第11回 CRCと臨床試験のあり方を考える会議 2011 in 岡山

■Know-how

How to 業務(事例)発表： 身近なテーマを素敵な発表にするコツ

山田 浩, 山本 晴子

■Report

SMONAセミナー「模擬患者参加型研修」

■Report

eCTD研究会

■Series

「製薬医学: Pharmaceutical Medicine」って、
何だ? ⑦

重藤 和弘

■連載

米国治験事情 ⑤

小河 貴裕

■連載

21世紀臨床開発の新たなアプローチ ⑦

小宮山 靖

■連載

いきいきとプロの仕事をする ⑥

瓜生原 葉子

■連載

がん臨床試験と患者の視点 ⑱

片木 美穂

No. 26

2011/10

模擬患者 (SP) の参加で、被験者対応に求められる スキルをより実践的に学習

—SMONA「CRCのための模擬患者参加型・医療コミュニケーション研修」

編集部

エスエムオーネットワーク協同組合 (SMONA, 山内士具代表理事) は2011年9月11日 (日), 「CRCのための模擬患者参加型・医療コミュニケーション研修」を都内で開催した。

模擬患者 (Simulated Patient, SP) との対話を通じて適切な同意説明について学ぶ本研修は、大分大学医学部創薬育薬医療コミュニケーション講座教授/国際医療福祉大学大学院特任教授 (創薬育薬医療分野長) の中野重行氏をアドバイザーとして招いて行われた。SPを担当するのは「NPO法人 響き合いネットワーク 東京SPの会」の方々で、当日は事務局長の神永貞信氏ら9名がボランティアとして参加。中野氏による講演「医療コミュニケーションの視点から見た臨床試験」の後、同意説明のロールプレイとグループ発表、質疑応答、SPによるフィードバックなどが行われた。

●本人の気づかない会話傾向等をフィードバック

本研修に参加したCRCは、SMONA加盟企業等に所属する計36名。これらの参加者が1グループ4～

5名の8グループに分かれ、各グループが1名のSPを被験者候補の患者として迎え入れて、CRC役に参加者1名が1回30分間の同意説明を行う形でロールプレイが進められた。昼食を挟んで午前と午後に行われたロールプレイは、計5回。CRC役はロールプレイごとに入れ替わるため、参加者は本研修中、少なくとも1回はCRC役を経験する構成となっている。

SPが演じる患者の疾病は「過活動膀胱」と「糖尿病性神経障害」の2種類だが、患者の性格や生活背景等は一様ではない。たとえば、SPのAさんは「知識を振り回し蔑視し、非協力型」、Bさんは「病気で仕事ができないと泣く。プラセボでない薬が欲しい」、Cさんは「理詰め拒否型」といったように、SPは同意説明を進めることが難しいさまざまな“役回り”を演じるように設定されている。CRC役以外の参加者は「観察者」となり、多様なキャラクターを持つ患者といかにコミュニケーションをとるかを客観的に評価し、ロールプレイ後の10分間のディスカッションの中で、本人が気づかない会話の傾向などをフィード

バックする。こうした検討は参加者同士だけでなく、患者役を演じ終えたSPを交えて行うため、SPとの対話を通じて非言語的コミュニケーションの重要性を改めて認識するなど、実践的な医療コミュニケーション研修の場となっている様子が見てとれた。

アドバイザーを務めた中野氏は全体の感想のなかで、「90度法」など医療面接における事前のセッティングの重要性に触れるとともに、「本研修で得た“気づき”を持ち帰り、日常の業務に生かしてほしい」と語った。

